

『本番に強い』御影西分団



執筆者
東灘消防団御影西分団
川崎 恭雄

僕たち御影西分団の最大の特徴

は、「本番に強い」こと。そのことを身に染みて実感したのは、数年前の神戸市消防団小型動力ポンプ操法大会のときです。東灘区の代表なのに、いくら練習してもなかなか好タイムが出せず、東灘消防署の方々から叱咤激励の嵐！でも、いざ本番になると、強豪地区には全然及ばなかったものの、信じられないような自己最高のタイムを叩き出せたのです。

東灘消防団員の指導により行う市民救命士の講習会でも、救急インストラクター資格取得のときは「大丈夫かなあ、この人ほんまに教えられ

るんかいな」って思うような団員でも、いざ会場に派遣されると、ピシッと会場の雰囲気をもとめて、参加者の気持ちをグイグイ引き寄せ、講習終了後には、感謝の言葉や笑顔を多数いただけるくらい講師ぶりを發揮するのです。

ちなみに僕は、3月から5月まで化膿性脊椎炎という、背骨に菌が入ってお尻の筋肉が化のうし、激痛と40度を超える高熱が続く病気で、65日間入院することになり、救急インストラクター資格が失効してしまっただけですが、一人でも多くの方に心肺蘇生を習得してほしいという思いと、参加された方たちからの感謝の言葉や笑顔が忘れられなくて、資格の再取得を志願するくらい、心肺蘇生の講習が大好きです。

そして、御影西分団の最も重要な任務のひとつに、防潮堤の水門管理

があります。

兵庫県南部に警報が発令されると、私たちは大至急水門へと駆け付け、海面の水位状況を見ながら、豪雨の中、水門を開け閉めしま

す。もし、この操作手順を間違えたり遅れたりすると、嵐による高波は河川を逆流し、近隣の住宅を水浸しにする可能性だってあるかもしれませんが、そこは本番に強い御影西！一瞬で状況を判断し、最適な開閉と小型ポンプによるバイパスで、どんな荒波からでも街を守ります。

これからも、この本番に強い特徴を生かし、地域の人たちを火事や災害から守るとともに、心肺蘇生などを伝えていきますので、皆さん、応援よろしくお願いします。

